



えんちょう先生の No.12 わくわくだよ!

あの暑かった夏がうその様なこの頃、木々で鳴く蝉も夏を惜しむかの様に心なしか弱く聞こえます。季節は秋。小学校の運動会も、もうすぐですね。遊戯室を除くと、年少さんが腕に赤と青の花をつけて貰い「赤の花の手をあげて〜」と先生の声に合わせて遊戯の練習をしていました。年中さんは、ぼっくりに乗ったり、ポールを走って回ったり、年長さんは、逆上がりや跳び箱も頑張っています。この夏、プールの合間にも運動で身体を鍛えてきたこども達、運動会に向けても張り切って身体を動かしていくでしょう。楽しく遊んだプール遊びもおしまい。年長、年中さんの午睡も終了となりましたね。今日は年長さんに楽しいリズムを教えて貰い、8月の誕生会を行いました。6月、7月にお休みした子も一緒にやれてよかったね。



年少さんの畑で取れたかぼちゃとポップコーンです。



D君が持ってきてくれたジャガイモです。こんなに種類があるとは!

8/20雨降りで、よく草がとれました。草かき機を使い慣れた年長さん。年中さんはこの日初めて草かき機の使い方の練習をしたね。危険のない様に持ち運びの仕方にも覚えました。道具を使うと、効率良く、草取りも楽しく進むね。



教育新聞より



響

校長講話

▷243◁

齋藤 照代 前名古屋市立弥富小学校校長

「こどもには安気に失敗できる環境が大事だよ。失敗を許されて、もう一回挑戦してみる機会を作ってもらえる事が、こどもの成長に繋がる!失敗を非難されたり、叱られたりしていたら子供は、やってみようとしなくなるからね」・先生達によく話す言葉です。生まれて、たった数年の経験しかないこども達には目新しくやってみたい事が周りにはいっぱいあるはず。けれど、一回や二回で上手く出来る事は少ない。ああしたり、こうしたりと試行錯誤して、やってみる内に、「あ、出来そう!」の感覚を感じて頑張る事を覚えていく。これから運動会の練習が始まるけれど、「だいじょうぶ だいじょうぶ」を合言葉に、明るく頑張らせ「できた!」を増やしていきたいと思ひます。



ひとりぼっちの愛の詩より 須永 博士

◆年中さんが畑から帰ってきて、「園長先生、子房柄みてきた!」と、口々に・・・「おうーなかなか難しい言葉を使っているんだ!」聞いてみれば、凶鑑でピーナツの育ちを勉強し、部屋の前のプランターに植えたピーナツの株に付いた子房柄を見てから、畑に行くと、みんな株を覗き込んで、「あれだ!」あれが子房柄だ!」と言いなながら見たんだと。黄色い花がしぼんで、そこから伸びる子房柄が土に刺さって、ピーナツになっていく様です。こども達にとつて新しい事を知る喜びは大きいですね。

教室は、失敗しながら学ぶところ。失敗したくない!間違えたらみんなに笑われるかもしれない!という思いから、自分の意見を言えず、せつへの学びのチャンスを逃している子どももいます。何でも言える学級の雰囲気の中で、伸び伸びと学んでほしいと思ひます。

失敗から学ぶ

皆さんは、発明王エジソンを知っていますか。エジソンはどれくらいの発明をしたかと思ひますか。何と1300もの発明品を生み出しました。電球や蓄音機、映画などの発明は皆さんも知っているでしょう。

では、エジソンはどうしてそんなにたくさん発明ができたかと思ひますか。「私は失敗

なんかしてない。こうするとうまくいかないという方法を1万通りも発見したんだ」と答えたのです。そう。失敗は発見なのです。失敗や間違えることは新しいことに気付くチャンスです。また、皆さんが知っているイチロー選手は、4千本安打を達成した時、「自分には4千本安打の倍以上の失敗があり、今はその悔しさしか残っていない」と話していました。素晴らしい成績に満足するのではなく、失敗にしっかりと向き合っている言葉です。悔しい気持ちを乗り越えて努力を積み重ねることの大切さが伝わってきますね。

皆さんも失敗したり間違えたりしたときに、恥ずかしいとか、自分はダメだと思ひないでください。エジソンやイチロー選手のように、失敗からたくさん学ぶことを見つけてほしいです。失敗は成長のチャンスなのです。